

# 峰のひかり

発行人

社会福祉法人 七峰会

理事長 奥田 稔

〒036-8356

青森県弘前市大字下白銀町 21-8

電話 (0172)33-8861

FAX (0172)33-8862



今年も春の息吹と共に『通勤寮拓心館』の宿泊型自立訓練を終えた4名の利用者さんは、地域社会で新しい生活をはじめました。  
アパートでひとり暮らしを始める方、『津軽生活支援センター』のグループホームを利用する方、皆さんそれぞれの選んだ歩みを進めています。

## 拓心館グループ 春は旅立ちと出会いの季節！



アパートで一人暮らしを始めるAさんは、生活支援員と共に不動産屋に行き、アパートを実際に見て回りました。しかし、予算等に見合った自身の希望する物件になかなかめぐり会えず、2月から3月にかけて仕事が休みの週末に、何度もアパートめぐりをし、ようやく希望する物件が決まり満面の笑顔を浮かべ喜んで

いました。自身の収入からどれくらいの家賃で、就労先からの交通の便はどうであるかなど、自立生活に向け考えるよい機会になりました。

4月から新たに4名の利用者さんが『通勤寮拓心館』を利用しています。就労される方、訓練校へ通う方、『就労サポートひろさき』を利用し就労を目指す方と様々ですが、今までと異なる環境に戸惑いながらも、生活スキルを身につけ、就労及び就労継続と地域生活に向けて頑張っています。

『津軽生活支援センター』のケアホーム・グループホームの14名の利用者さんも、日常生活動作、職場環境、対人関係など様々な変化や希望により、本人とご家族と話し合い、新たな環境で地域生活を始めています。

この時期は荷造りや新生活用品の購入など、引越し準備で利用者さんも生活支援員も大忙しですが、新生活に向け期待に胸ふくらませ、荷造りをする手も心なしか軽やかです。利用者さんと支援員が協力しあいながら、自分たちの力で全ての引越し作業を行ない、3月31日に無事引越しを終えることが出来ました。

新たな環境での地域生活が豊かなものになるよう、一人ひとりのニーズに合った支援を心掛けます。

## 快適に過ごして いただくために

『山郷館くろいし』では、高齢化や障がい者の重度化がすすんでいる利用者さんの支援体制の充実を図るために、住環境の面でいくつかの福祉機器を導入しています。

車いすとベッド間の移動の際には、職員によるトランスファーに加え、介護リフトを使用しています。

この介護リフトは3年前から導入しており、体格の大きな利用者さんや、トランスファーによる移動では怪我のリスクが高い利用者さんに、今まで以上に安全で安楽に移動してもらうために使用しています。

さらに、今年度は介護リフトを増設し、浴室での使用も始めました。これにより、浴室などの滑りやすい環境でも、無理なく少ない移乗回数で入浴できるようになりました。

また、声が出にくくなり、言葉でコミュニケーションが難しくなってきた利用者さんに対しては、意志伝達機器を導入しました。

以前は、伝えたくても伝わらない、聞き取りたくても聞き取れない、というやり取りが長時間続いたり、聞き取り間違いがあったりと、

迅速で正確な支援が難しくなっていました。

意思伝達機器導入後は、職員全員で使用方法を統一し、スムーズで正確に利用者さんの意思を聞き取ることができています。

人の力だけでは難しい支援もありますが、福祉機器を上手に活用することで支援の幅が何倍にも広がります。

どんなに障がいが増えても、その人らしく生活していただくために寄り添い、山郷館くろいしだからこそ出来るサービスを提供していきたいと思えます。

## 共に支える支援を

保護者研修会

平成24年2月18日(土)、「弘前市民会館」において、施設利用されている方のご家族に対し、また、通所利用されている方のご家族に対しては、同年3月3日(土)、『弘前文化センター』において、延べ約70家族参加のもと、保護者研修会を開催しました。

この研修会は、本年度事業についての報告と次年度事業計画を説明するとともに、一人ひとりのケアプランについて話し合いを行う中で、ご

家族と施設が共通の認識を持ち、ご本人の意思を尊重した支援につなげていくことを目的に、毎年開催しているものです。

工藤園長からは、昨年から今年にかけて、全国的にインフルエンザが流行したが、拓光園ではインフルエンザの蔓延はなく、利用者の皆さんは、元気に生活できていること、

また、前回発行の「峰のひかり第78号」でも紹介したケアホーム建設について、そして、4月1日から、拓光園で行っている児童デイサービス事業が、制度の変更により「放課後等デイサービス事業」として行われることになる等の情報提供がされました。

そして、その後のケアプランの説明においては、担当からご本人、ご家族のニーズを踏まえ、ご本人の能力を最大限生かしていくための取り組みを取り入れたケアプランを説明させていただいたことで、ご家族からは同意をいただくことができました。

今年度も、変化する障害者福祉施策に臨機応変に対応しながら、ご本人の望む暮らしに向かい、ご家族の方と共に考え、共に支えていくという姿勢で取り組んでいます。



障害者支援施設 旭光園

「障害者支援施設 旭光園」  
になりました。

平成24年4月より新体系に移行しました。新生『旭光園』は4つの事業を支援していきます。

①就労継続支援B型事業（定員40名）

今後も「働く場の提供と就労への手助け」という社会的責任を基に、安定した支援を継続します。

②生活介護事業（定員20名）  
介護を要する利用者さんの入浴、排せつ、食事等のサービス。日々の生活や仕事ができるように毎日のきめ細やかな支援をします。

③施設入所支援事業（定員40名）  
主に夜間において、入浴、排せつ、食事の介護を行い安心して施設生活を送れるよう支援します。

④短期入所事業（定員4名）  
短期間、夜間も含め施設で、入浴、排泄、食事の介護等を支援します。

平成23年度は新体系への準備期間として活動しました。

生活面では、安全、安心、快適に入浴できるように、浴槽を一般浴槽の他、リフト付を設置し浴槽のリフトームを行いました。又、介助が必

要な利用者さんの買い物外出の機会を増やすなど、日程の一部を見直しました。利用者さんからは、自分のお気に入り商品を購入でき、「うれしい」と大変好評でした。



作業面では、これまでの授産活動の他、利用者さんの持っている特技を生かした創作活動も取り入れ、小物入れやちぎり絵等を作成しました。既存の設備を生かした製品作りと趣味を生かした創作活動を行うことで、働く楽しさを提供していきます。

利用者の方皆さんお一人おひとりの「働く・暮らす」を大切に考え、毎日が充実した日々を送れるよう支援していきます。

皆様のご支援とご協力をよろしく  
お願い申し上げます。

障害者支援施設 山郷館グループ

安全・安心な介護を目指して

リフター導入への取り組み

『山郷館』ではほとんどの利用者さんが車いすを利用しています。毎日の生活のなかでベットと車いすの移動は欠かすことのできない動作です。手足に力の入らない利用者さんの移動は抱きかかえたり2人がかりで持ち上げて介助させてもらっていました。そんななか職員・利用者さん両方の負担軽減と安全安心を目指して『移動用電動リフト（リフター）』がわが介護現場にも導入されました。

今まで体力勝負の力仕事でやってきた職員の間では「器械を使うって・・・」と戸惑いや気後れがありました。また利用者さんのなかには器械に吊られて移動することに不安や恐怖を抱く方もいました。そんな思いを受け止めながらも導入を進めるべく、まずは職員同士の乗ったり乗せられたりの操作練習から始めました。そして利用者さんにも協力してもらいながら徐々に実践を重ね、現在は予定



者のごく一部ではありますが2名の利用者さんに実際に使用させてもらっています。

従来の移動方法では力任せや無理な体勢での動きにより、職員の腰痛や利用者さんの小さなケガにつながることがありました。それが介護介護リフトを使用することでいつでも安定した安全安心な介護を提供できるようになっています。使用を心配していた利用者さんからも「思ったより怖くなかった」「大丈夫だよ」といった前向きな感想が聞かれています。

今後もさらに実践を重ね安全安心な介護に磨きをかけていきます。

特別養護老人ホーム サンアップルグループ

ゼロの取り組み

自立支援介護に取り組み、おむつ使用率ゼロを達成した事については、平成21年〜22年にかけて本紙で紹介させていただきました。又、経管以外の方のミキサー食、刻み食をゼロにし、全て常食に移行した事についても、本紙75号で紹介しています。今は、胃ろうの方の経口摂取に取り組んでいます。それらと同様に、行っていたのが、褥瘡ゼロの取り組みです。

施設にとって、褥瘡を作らない・褥瘡を生じない生活を提供するとい



對馬武弘さま経管栄養から常食へ

うことは、常識でありながらも常に向き合ってきた事です。

褥瘡(床ずれ)の原因は、皮膚組織に圧やズレが生じることで、血液循環が遮断され、皮膚が赤くなり、この状態が継続することで皮膚組織が壊死し褥瘡が出来ます。皮膚が不潔であったり、低栄養であったりすると、褥瘡が起る可能性は高まります。

おむつ外しという取り組みは、尿や便(アンモニアの作用)による皮膚のバリア機能損傷や皮膚を「こする」事で起こる損傷、長時間のムレを作らない事で褥瘡を予防することにも繋がります。従って、おむつゼロのサンアップルでは、少なくとも

も、おむつを原因とした褥瘡はいま

せん。しかし、その他を原因とする褥瘡のある利用者さんに対しては、医療、介護、栄養部門がチームとなり、個別の経過を観察、目標を定めてゼロを目指しています。(平成21年末16名、平成22年末6名、平成23年末完治まであと2名)

ゼロは目標ではありませんが、取り組み経過が結果的に、より良いサービスタにつながる事が、我々職員の願いです。そして、利用者さんの多くが、幸福を感じていただけているよう、努力していきたいと思えます。



歩行訓練を始めました

総合支援事業

障害者支援事業

高齢者介護事業

介護事業

- 高森福祉センター ☎4524
- 津野町福祉センター ☎2400
- 弘前市障害者生活支援センター ☎2100
- 弘前市北部地域包括支援センター ☎5018
- 山形県総合支援センター ☎5018

主に知的

- 障害者支援施設 拓光園 ☎23331
- 施設入所支援 生活介護事業
- 拓光園短期入所支援センター
- 拓光園障害児デイサービスセンター
- 拓光園日中一時支援事業所
- 拓光園共同生活介護事業所(2ヶ所)
- 拓心館グループ ☎45220
- 自立訓練事業(宿泊型自立訓練生活援助)
- 津野町生活支援センター(共同生活介護援助)
- はあと(児童発達支援事業、放課後デイサービス)
- 既済サポート(こども発達支援センター)
- 勇心学園(就労訓練施設)
- エイブル(生活介護、就労継続支援B型)
- 指定相談支援事業所ヒリール

主に身体

- 障害者支援施設 山郷館 ☎2211
- 山郷館身体障害者(児)短期入所事業所
- 山郷館アイサードサービスセンター
- 山郷館アイサードサービスセンター弘前
- 山郷館アイサードサービスセンターくればん
- 山郷館地域活動支援センターくればん
- 山郷館児童発達支援センター
- 山郷館訪問介護センター(黒石) ☎5018
- 山郷館(パレット)福祉ホーム
- 山郷館アイサードサービスセンターキッズ
- 山郷館ライフ(共同生活介護・援助)
- 障害者支援施設 山郷館さじ ☎3070
- 障害者支援施設 旭光 ☎5155
- 施設入所支援 生活介護 就労継続支援B型
- 旭光園身体障害者短期入所事業所
- 福祉ホームさわら

住宅型有料老人ホーム「わかば」

- サポートセンターわかば ☎1165
- 認知症グループホームわかば
- デイサービスセンターわかば
- サンアップル在宅介護支援センター ☎2131
- 住宅型有料老人ホーム「わかば」 ☎1888

特別養護老人ホーム

- 山郷館居宅介護支援センター ☎2941
- サンアップル居宅介護支援センター ☎2131
- サンアップルホーム ☎2111
- サンアップル短期入所生活介護センター
- サンアップルホームデイサービスセンター
- サンアップルヘルパーセンター ☎3758
- 認知症グループホームアップル ☎2778
- 認知症デイサービスセンターじよい ☎2013